

南アフリカから見た日本の学校

喜多雅一*, テンビ・ンデラニ**, 小野由美子***

(キーワード: 学校文化, 日本と南アフリカ共和国, 理想の学校)

1. はじめに

南アフリカではアパルトヘイト時代の「教育における不平等」, 特に旧黒人学校の環境(学校設備・教室環境・教員と生徒の比率・教員の資質など)の改善が大きな問題となっている¹⁾。国際協力事業団(JICA)の南アプロジェクト「ムプマランガ州中等教員再訓練計画(Mpumalanga Secondary Science Initiative: MSSSI)」におけるベースライン調査は, 南アの教員の授業に取り組む態度や内容理解に関して実施された。その結果について日本側の分析があり, 理科・数学の内容についての理解の低さや授業の準備時間が少ないことや授業改善についての仕組みがないこと(校内研修や授業研究などをしない)が指摘されている²⁾。これをふまえてMSSSIは, 南アの新しいカリキュラムC2005で求められている授業をするために必要な教師の知識・授業法と実際に行われている理科の授業とのギャップを克服するために, 定期的な校内研修を行う教育行政システムを南アに構築する活動を2000年より行っている¹⁾。校内研修のやり方や教師同士がお互いに学び合う方法などをMSSSIブックレットとしてまとめている^{3,4)}。南アの学校の置かれた状況をどの方向にどのようにして改革していくかを探るために, アンケートによる日本と南アの比較調査が, すでにいくつかなされている^{5,6)}。

本研究は日本(徳島県内)の中学校・高校を訪問し, 学校長と理科・数学の教員に面談し, 著者の一人(T.N.)が作成した以下のテーマについてインタビューの方法で調査した結果に関するものである。

- ・学校における規律
- ・教師のやる気とコミットメント
- ・授業準備
- ・学校で過ごす時間
- ・教科書以外の本からの情報の利用
- ・学校の資源の活用

- ・管理上の問題
- ・学校内での研修
- ・教員の労働倫理

これらの結果を南アフリカの教員に対する同じ調査と比較し, 南アフリカの教育行政関係者ならびに教員に南アフリカにとっての理想の学校像を探る上での示唆を与えることを目的としている。

2. 調査方法

南アの理数科教員に対する量的な調査と分析は, Graysonら⁵⁾, ならびにJICAによるベースライン調査²⁾があるので, 今回は個々の教員について, 教員としての経歴や考えを中心に2002年7月から10月にかけてインタビュー調査をした。あらかじめインタビューを承諾頂いた学校にンデラニが作成した質問紙を送付し, 学校A, Bでは, 文書で回答頂いたので, さらにその回答に基づく関連質問も含めて3名の著者らの協同でインタビューを学校長と理科・数学の教員に対して行った。

まず, インタビューの目的を「よい学校」(Good School)と呼ばれる学校を作るために教師や校長が, 日々どのような実践をし, 専門性を高めているかを探るためと説明し, 次に学校長のこれまでの教員としての経歴を聞き取りした。これについては後述する。

学校長への質問項目を以下に示した。質問は次の3領域について構成されている。

- A. 学校経営上の問題
- B. 専門性の問題
- C. 課外の問題

A. 「学校経営上の問題」として,

- (1) 学校要覧記載の基礎データを説明してもらい,
- (2) 教育委員会からの学校経営上の要請などの有無,
- (3) 研究指定校として重点的な研究の有無,

*鳴門教育大学自然系(理科)教育講座

**プレトリア大学理科教育センター

***鳴門教育大学言語系(英語)教育講座

- (4) 研究指定校として研究をするときの学校全体の組織の作り方,
- (5) 学校改善をめざす上での対処方法(教師集団での共通目的意識の形成など)を聞き取りした。

B. 「専門性の問題」として,

- (6) 各先生の職務遂行状況(校務分担や授業について),
- (7) 生徒の学習指導並びに生徒指導上の各先生の達成度測定,
- (8) 学校を取り巻く地域や父兄の状況などの把握,
- (9) 校内における教科ごとの教師の打ち合わせ(教務:授業内容の年間計画, 他教科との連携など)の把握,
- (10) 校長として教科の指導や指導力の強化へのコミットメント,
- (11) 校内研修計画を学校で作成する上で校長としての留意点,
- (12) 2003年4月からの新カリキュラムへの学校としての取り組み,
- (13) 教師による生徒の評価に校長としてどのように関わっているか,
- (14) 教師の評価をどのようにしているか,
- (15) 父兄の学校運営またはカリキュラムの改訂などへの関わりなどを聞き取りした。

C. 「課外の問題」として,

- (16) この学校で盛んな部活動,
- (17) 部活動への校長の関わり,
- (18) 部活動の実施時間,
- (19) 週末における勤務状況,
- (20) 地域の活動への参加状況などを聞き取りした。

- D. (21) この学校をよい学校にしている5つの要素と(22)校長として思い描く「夢の(理想の)学校」について意見を聞いた。

また、理科・数学の教員に対しても以下のような質問を同様にした。これも次の3領域に関する質問から構成してある。

- A. 学校運営面の支援
- B. 専門性の問題
- C. 教室の問題

A. 「学校運営面の支援」としては,

- (1) 校務分担への学校からの支援,
- (2) カリキュラムの実施への学校からの支援,
- (3) 学校運営面に自分の意見を言う機会,
- (4) 学校改善をめざす上での自分の寄与,
- (5) あなたの学校がよい学校だとするとその理由についてなどを聞き取りした。

B. 「専門性の問題」としては,

- (6) 理科や数学を教えることが楽しいか、また、その理由,
- (7) 1コマの授業を準備するのにかかる時間,
- (8) 授業を準備するのに必要な本の冊数,
- (9) 自分自身の授業の評価,
- (10) 毎日平均して学校にいる時間,
- (11) 授業以外の時間に何をしているか,
- (12) 校内研修で得る情報,
- (13) 新しいカリキュラムについての感想,
- (14) 生徒をどのくらいの頻度で評価しているか,
- (15) 他の先生の授業を見ることがあるか,
- (16) 教科ごとの市レベルまたは県レベルの研究会にどのくらい参加しているか,
- (17) 有志で行っている授業研究会などに参加しているかなどを聞き取りした。

C. 「教室の問題」としては,

- (18) この学校の生徒の特徴,
- (19) 実験・実習の授業の頻度,
- (20) 実験・実習を生徒がどう受け止めているか,
- (21) 班単位(グループ)での作業をどのくらい行うか,
- (22) 教室で教科書をどのくらい使うか,
- (23) 宿題を毎回出すか,
- (24) 宿題をどのように採点するか,
- (25) 生徒の父兄と生徒の教科内容の達成度などについて、どの程度、連絡を取り合っているかなどを聞き取りした。

以上の聞き取りの結果をまとめ、2000年と2001年に実施した南アの学校長や教員にした同様の事例研究と比較した。

3. 日本の学校の事例研究の結果

中学校A、高等学校B、Cについてそれぞれ学校長の回答を表1、2、3にまとめた。

中学校Aの校長の経歴は教師生活が30年、そのうち教頭として7年、校長になって3年目である。

表1 中学校Aの校長からの回答

A. 学校経営上の問題(1)～(4) 学校経営と研究指定校	学校には伝統・文化があり、校長は教師と相談しながらそれらを守り発展させていく。本年度の本校の目標は「広く世界を知っていく」である。教育委員会は以前、学校に対して指導的立場であったが、今は学校の独自性をたすけるというスタンスに変わってきている。教育委員会に対して学校経営方針等を文書で報告する。「学力向上フロンティア事業」の指定を受けている。県の指導を受けながら学校の独自性を加味して研究していく。
(5) 学校改善	教師は大きな改革をあまり歓迎しないので、教師の意識改革が重要である。
B. 専門性の問題(6)～(11)	一日一回各教室を回っている。学習状況やテストの結果はすべて管理職に報告される。教務主任と教頭が主に調整をしている。校長はアドバイスを求められれば答える。校内研修については過重になりがちなのでそうならないよう留意している。月に一回授業研究会をし、授業について討論している。市で教科の研究会が年に3回ある。県レベルでは2年に1回ある。理科に関しては県研修センターに相談できる。
(12)～(15) 新カリキュラムと評価や父兄	体験活動重視という点で意義があることであるが学力を向上させるという点で心配である。生徒の通知票はすべてみることにしている。教師については日々の実践の観察から評価をしている。評議員制度に地域から3名が参加している。保護者向けに校長室だよりを出している。
C. 課外の問題(16)～(20)	サッカー、野球、バスケットボール、ソフトテニス、柔道、プラスバンド、美術。校長として公式試合には応援に行く。生徒は放課後3時半から6時頃まで活動している。毎月第二日曜日は全県で部活動無しの日であるがそれ以外は週末も練習や試合をしている。個人的に地域の活動はボランティア(独居老人の慰問や弁当作り)をしている。
D. (21) 良い学校の5条件	教師、生徒、保護者、これらに支えられた良い伝統、そしてリーダーとしての校長
(22) 夢の学校	生徒にとってよくわかる授業(楽しい授業)がなされている学校。生徒同士が助け合ってお互いに向上できる学校。

高等学校Bの校長は、教師になって35年で教員組合7年間、県教委12年間、現在校長になって2年目の経歴である。

表2 高等学校Bの校長からの回答

A. 学校経営上の問題(1)～(4) 学校経営と研究指定校	校訓はなく、校歌を校訓に位置づけている。「徳島県教育基本方針」が教育委員会から出されているが、基本的には、これが、県レベルでの指針である。教育委員会主催の校長会が年4回ほどあり、適宜、指示・要請がなされている。生徒指導・教科指導・人権教育などの研究指定がある。本校は昨年度学校評議員制度の研究指定校であった。指定の内容によって組織は異なるが、一般的に言えば、副校長・教頭および各校務分掌の責任者、学年主任、教科の代表などにより、小委員会を校内に設ける。小委員会で審議したことを、全体の職員会議に随時かけながら、最終研究結果をまとめる。
(5) 学校改善	校長のリーダーシップが重要である。トップダウン方式とボトムアップ方式をうまく使い分けなければならない。基本的には、後者を多用する方針である。時には、内容により、前者の手法も使う。教育委員会への説明責任、父兄への説明責任を校長は果たさなければならない。教職員一人一人が、経営者の一人であることを常々意識するよう啓発している。学校の目指す方向を、校長が常々明確に教職員に伝える努力をする。
B. 専門性の問題(6)～(11)	職務遂行状況については、校長は、常々一人一人の教職員の動向を的確に把握するよう努めている。校長印が必要な文書提出の機会を活用して、コミュニケーションを深めるとともに、アドバイスも行っている。生徒についての達成度測定については、高校の現状はアバウトである。個々の教師にまかされており、科学的な測定方法が確立していない。今後の研究課題である。義務教育においては、相対評価から絶対評価に転換しており、達成度測定は、急速に確立の方向にあるものと考えられる。地域や保護者の状況の把握について、地域については毎日のことなので、おおむね把握している。ただし、地域とのコミュニケーションはもっと必要だと考えている。保護者については、PTA活動、担任との面談等を通して、把握に努めている。授業年間計画については、教務課が3月に作成する。各教科の打ち合わせは、必要に応じて随時行っている。教職員が多忙の故、連携は十分でない。他教科との連携はきわめて不十分である。指導結果についての科学的評価方法が確立していないため、校長からのきめ細かな指導はまったくできておらず、一般論として指導するにとどまっている。今後、すみやかに、具体的な評価方法を確立する必要がある。この問題は、今、全国的な課題となっている。校内研修計画については、安易に外部講師を招くのではなく、自分たちの力で自主研修するよう努力している。教師自身が研究する態度が必要である。今年度は9月から教員同士が互いの授業を見合うことにしている。これは昨年度の7月に校長が提案し、実現することになった。

<p>(12)-(15) 新カリキュラムと評価や父兄</p>	<p>高校は来年(2003年)4月から新学習指導要領の実施となっている。来年から、今年より実施の完全学校週5日制に加え、「総合学習」、「情報」が入るため、時間割の編成が極めて窮屈になる。特に大学進学を考えると、入試科目の授業時間の確保が極めて厳しい状況にある。教科指導について各教師が出した個々の生徒についての評価は、校長はノータッチの状況であるが、全体としては指導している。生徒指導についても、個別に特別指導をするとき以外はタッチしていない。全体としては、教科同様、折を見て指導する。教員に関する科学的評価方法は、確立していない。日々の勤務状況を見ながら、評価している。父兄は学校運営やカリキュラム改訂に対してPTA活動等を通して、いくばくか関わっている。今後、もっともっとも関わりを深めていくことが望ましい。そのためには学校・保護者双方の努力が必要である。カリキュラム改訂にはまったく関わっていない。地域とのコミュニケーションの機会としては文化祭などがある。</p>
<p>C. 課外の問題 (16)-(20)</p>	<p>盛んなのはバスケットボール男子、ラグビー、硬式野球、空手、バレーボール男子等である。部活動に校長は直接関わっていない。顧問に任せているのが現状であるが、顧問からの悩み・相談にはきちっと対応するよう努力している。放課後、土曜日、日曜日、祭日に課外活動は実施され、授業中にすることはない。部によって異なるが、一般的には放課後2時間から3時間程度の活動である。強いチームはほとんど休みなしで、週末も練習につく練習。部活動の顧問は、土曜日でも日曜日もなく、過重労働であり、家庭的にも問題である。地域の活動に参加している部活動は極めて少なく、本校ではボランティア活動として野球部とJRC(Junior Red Cross)等が地域の活動に参加している。</p>
<p>D. (21) 良い学校の5条件</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教職員のプロ意識をいっそう醸成すること。(資質の向上-教師としての使命感・責任感等) 2. 家庭・地域との連携を強化し、それぞれの教育力を取り込むこと。 3. 中学校・大学との連携を強化すること。 4. 学業、文化・芸術、スポーツ等、各活動いずれの分野でも、質の高いレベルをめざしてすること。 5. 生徒も教職員も、この学校に在ることに幸せを感じていること。そうすれば自ずと学校は発展する。
<p>(22) 夢の学校</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生徒一人一人が、自分の目標・夢の実現に向けて、生き生きとチャレンジしながら、生活を送っている学校。 2. 教職員が自分の学校に喜びを感じ、生きがいを持って教育活動を展開している学校。 3. 学業、文化活動、スポーツ活動等、すべての面で質の高いレベルの学校。(古い言い方をすれば、文武両道の学校) 4. 地域に信頼され愛されている学校。

県内の高等学校Cの校長は、あと2年で定年退職を迎える校長で、物理が専門である。教育実習で、教師になる意志を固め、最初は養護学校、県内の普通科で物理を教えてこられた。

表3 高等学校Cの校長からの回答

<p>A. 学校経営上の問題(1)-(4) 学校経営と研究指定校</p>	<p>旧制高校からの伝統があり、文武両道を目指している。7割以上の生徒が部活動をしている。大学進学にもう少し力を入れたいと考えている。県教委からは人権教育について持ち回りで研究指定が回ってくる。単位制の導入や各学校の独自性が求められている。</p>
<p>(5) 学校改善</p>	<p>校内研修として学年単位で全員が年2回授業を見せ合う授業検討会を行っている。学外での研修とその報告も行っている。人権に関しては県外での研修とその報告をしている。</p>
<p>B. 専門性の問題 (6)-(11)</p>	<p>各教員の職務遂行を評価するマニュアル作りをする必要がある。科目ごとに学期ごとに達成すべき目標を掲げている。学校の評価に関しても横並びが崩れてきた。</p>
<p>(12)-(15) 新カリキュラムと評価や父兄</p>	<p>総合学習が導入されるが、進路指導を中心に考えている。土曜が休みになり平日は七校時を作って対応している。土曜日にまた遅れている生徒向けの講座を実施している。評議員制度を必要に応じて活用している。100年の歴史があり3代にわたる本校出身者がいる。父母のどちらかが本校の出身者の生徒が大部分である。</p>
<p>C. 課外の問題 (16)-(20)</p>	<p>体操・野球・陸上が盛んである。保護者会のしっかりした支援がある。放課後と土曜・日曜に行っている。</p>
<p>D. (21) 良い学校の5条件</p>	<p>本校のように地域によって支えられており、自分たちの学校であるという認識がある学校である。豊かな人材(授業だけでなくスポーツの指導なども)がそろった教師集団がある学校。</p>
<p>(22) 夢の学校</p>	<p>文武両道で、毎日が生き生きとした高校生活ができる学校。</p>

中学校Aの数学教師、男性で教員歴17年、この中学校は2年目で、2年生の学年主任をしている。数学では楽しい授業にするのが難しい。日常生活に結びつけるのも難しい。生徒には「数学が苦手はいいが、嫌いになるな」と言っている。そのためにも先生を好きになるよう努力している。自分自身は高校2年生のとき数学が好きで数学の教師になりたいと思った。数学はわかる、わからないがはっきりしている。たとえば、一次関数の単元で、グラフを書く作業を数学が苦手な生徒にやらせて、できる満足感を持つように指導している。グループ学習は時間がかかるのでやっていない。新カリキュラムで数

学が週3時間に減ったため、時間的に余裕がない。よい学校とは高い学力ではなく、荒れていない学校である。体罰はだめだが、しかるときは厳しくしかる。生徒自身が何で怒られているのかをわかるように叱る。よい数学の先生とは、できるだけ一人一人のやっていることを見ようとする教師である。不定期に宿題を出し、次の時間にチェックするようにしている。教科指導で困ったら研究会で相談する。教科以外で困ったことがあると、教師同士、特に先輩教師に相談する。2年生である選択数学の時間に前期では週1時間であるが、数学が苦手な子供を集めて1年生の復習をしている。後期は週に2時間あり、数学が得意な子供を集めて伸ばす授業をする。

同じ中学校の理科教師、女性で教員歴14年、この学校で6年目で、1,2年生の理科を担当している。もう一人理科教員がいて、2,3年生を担当。市の理科研修は2人とも参加するが、県の理科研修はどちらかが参加し資料を回覧する。特別活動に関する研修もあるが参加した教員が資料を回覧する。文部科学省の教育課程研修には4年に1回出席する。新カリキュラムでは絶対評価が導入され、評価基準が必要になり、鳴門市の理科部会で理科教員全員(17名)で相談して作った。2002年の5月に第1回、7月に出来上がったものを持ち寄り、これら2回集まって作った。実験観察を含む授業は1~2時間準備にかかる。講義形式の授業の準備は短時間でできる。教科書の実験・観察は原則全部やっており、2週間に1~2回のペースで4人1組のグループでやっている。その様子を観察して、また、ノート・レポートを見て評価している。よい理科の教師とは子供と一緒に学べる教師である。子供に、学ぼうという意欲・関心を持たせることができる教師である。探究活動・問題解決能力をどのようにしてつけていくかが課題である。中学2年のとき担任の先生が理科で、また高校の理科の先生が担任で、これらの先生の影響で理科の教師になろうと思った。

高等学校Bの男性教員は理学部数学科を出て数学を高等学校で22年間にわたって教えてきた。教科書の内容の配列を自分の教えてきた経験に基づき、生徒がわかりやすいように変更して教えている。公式ではなく数学の概念を、イメージを持って理解するよう強調している。グループワークを取り入れた授業はしない。生徒同士に教え合わせることはある。だいたい生徒がわかることを中心にして授業を組んでいる。良い学校は教えることに熱心な先生がいて生徒のためを考えていて、生徒も目先だけでなく心の豊かさを追求している学校と考えている。塾では数学の深い理解はできない。生徒が自分の授業で数学がきちんとでき、生徒が自分に自信を持つというのを実感することが教師としての楽しみである。今年から高校で研究授業を行い授業技術を高める活動が行わ

れている。数学の研究会は毎年、8月の休み期間中に行われている。

同じく高等学校Bの教員歴20年の化学教員は自作のワークシートを用いた実験と講義の授業を行っており、ワークシートを3段階で評価している。実験はグループで行う。講義内容も実験でできるだけ確かめる。毎日9時頃まで学校で仕事をしているが、書類作りなどの教科とは違う仕事をこなすために夜、学校で仕事をしている。8月に教科研究会があり、参加している。良い学校というのは実業高校と普通科では違うかもしれない。自分としては生徒に化学の授業に興味を持たせるよう努力している。実験重視もそこから来ている。

高等学校Cで理科の教員にもインタビューをした。高校の理科の授業で高校の教員になろうと思ったという先生が多かった。彼らの考える良い学校とは生徒が生き生きしている学校である。また教職員のよい人間関係も重要である。

4. アフリカ共和国の学校と日本の学校の比較と考察(主として南ア側(T.N.)から見た比較考察)

Schools were visited in Naruto in Japan with the purpose of observing and collecting the "ingredients" that make a school a good school. This information is to be shared with the schools that are participating in the Mpumalanga Secondary Schools Science Initiative (MSSI). This is a Japanese Funded project which aims at improving the teaching of science and mathematics in schools in South Africa. The ultimate goal is to improve the schools to become good schools of science and mathematics. The project started in 1999 and is implemented in the entire Mpumalanga Province in South Africa.

A similar study was done in 1999-2000, Jansen et.al.⁷⁾, in South Africa, although its major focus was the implementation of Curriculum 2005, but it talks a lot on the conditions of schools and the teaching profession. One of the authors (T.N.) did case studies in two MSSI schools in 1999-2000 where some important data revealed the professionalism and the management of schools in South Africa. This information has been used to compare the management and the professionalism of MSSI schools in South Africa to those of the Japanese schools. The information focused on the following: Management Issues, Teacher Professionalism, Extra mural activities

Obiakor (2001)⁸⁾ clearly in his recent publication speaks a lot about good schools and he states clearly that a good

school should,

“holistically educate the total child, academically, socially, emotionally, culturally and global”

This statement is confirmed by the Fairview Elementary School⁹⁾ which happens to be a good school in North Carolina in the US. The school's Improvement Plan (2002-2003) has four basic objectives. These are 1. Intellectual, 2. Personal, 3. Social and 4. Physical Development. This school plan immediately shows the holistically education of a child. Obiakor (2001)⁸⁾ concludes by saying that,

“good schools are made of good teachers who know who they are, learn the facts when they are in doubt, change their thinking, use resource persons, build self concepts, teach with divergent technique, make right choices and continue to learn”.

If such teachers are in a school, then the school will be a good school that produce critical thinkers, divergent thinkers and problem solvers. Following his argument of a good school, most of the schools that tends to be known as good do comply to his argument on issues and activities that take place on daily bases.

This paper has tried to observe teachers in good schools in Japan and identified those ingredients in their daily professional tasks that make them good teachers in good schools. We need good schools for all our nation's children and therefore we should learn from the Japanese. For us to get this information the identified schools were visited with the aim of observing what the teachers and the principals do at their schools that make their schools good schools. We wanted to see where the link lies between good teachers and good schools. The paper has left out the obvious differences on developing and developed country and concentrated on the actual school practices of teachers and principals in schools. One Junior Secondary school and two High schools were our sites of research in Japan. These schools have been named as A B or C for confidentiality purpose.

The confirmed results of elements of good school will enable the team to give guidelines to the MSSSI schools that are being put into an innovative program on Science and Mathematics, which is envisaged to make good teachers that will make their schools good schools in South Africa.

◀ Findings at the Japanese schools ▶

The responses of the interviewees in the selected schools

that participated in this study confirmed some of the views that researchers have on good and effective schools. Good schools are made of good teachers. Obiakor (2001)⁸⁾, emphasizes the fact that good schools must be where the teachers have the courage to teach and should believe in quality with a heart. He further refers to these teachers as teachers with a soul and a heart that form basis of good schools. Ovens (2000)¹⁰⁾, takes it further by mentioning “evidence-based practice” as a model for professional development of teachers. Our study thus provides the evidence of the principals and teachers practices in good schools. These are the practices that will be recommended and suggested to the participating schools in JICA project.

(A) School Management

School environment is conducive for teaching and learning. Learners and teachers are at school on time and the resources for the teachers to use in the classrooms are available. Minimal or none disciplinary problems experienced, if they exist they are the responsibility of every teacher.

Culture is embedded to teaching and learning in schools respect, responsibility, work ethics and ownership appeared to be very strong. The mathematics teacher shared with the interviewer team that he arrives at school at 7 in the morning and leave at 7 in the evening, marking and preparing lessons and activities for his two groups of students. The highly capable students do SELECTIVE Mathematics and the average, normal students do the usual Mathematics. The science teacher at School A told the team on how they had to organize the subject meeting for the natural sciences on their own as teachers after school from 3 to 6pm.

Every teacher has a role to play in the management of school; it is not only the duty of the principal. Shared management is the responsibility of every teacher at the school and not only the principal and the management team.

Every teacher including the principal is accountable to the learners and to the community. The PTAs play important role in supporting the activities that take place in schools. The spirit of ownership and responsibility was visible to all the people we interviewed.

Monitoring of activities at school done on daily, weekly and on monthly bases by the principal. School B principal mentioned the informal monitoring which is done through the document and reports that are sent to the office on daily bases.

There is few links with the parents on school activities. School B reported that there is not much that the parents contributed on curriculum issues, but he believes and hopes that they give advise to their children on educational matters.

Documents on school's profile and the yearly plans are available and are strictly adhered to. All the people interviewed were very modest on their schools being good schools but the activities that the team observed and the responses that the principals and teachers gave are a proof of what goes on in good schools on daily basis.

Principals from various schools meet on their own management issues to discuss, but not very often. This is through their own initiative.

Strong support is given to the teachers on subject related issues

The principal at JH school A who happened to be a science teacher, assist the science teachers at his school. The schools allowed their teachers to share the information when they are from INSET courses. Thursday afternoon in this area is scheduled for school-based workshops in which the principal take part in lesson study sessions.

Sharing of the school vision and goals with the parents through newsletter, photos and meetings is done frequently.

The schools have been selected to pilot some new innovative programs for the Minister of Education School A was piloting the Assessment document while school C was piloting the Human Rights document

Learners learn what they want to learn. The principals of these schools are friendly and would like to develop their learners holistically. Learners choose the subjects that they prefer to do with the guidance of teachers.

(B) Professional Issues

In subject related issues, Japanese teachers attend frequent after-school meetings, on their own initiative for their own development. Feedback, reports and handouts are shared amongst the teachers. They spend long hours in school, sometimes 10 hours when the official hours are from 8.30 to 17. They spend the minimum of two hours preparing for a one period experimental lesson, but if it is a new topic, it takes longer than two hours. Teachers consult with the neighboring schools on problematic content knowledge. They have school-based meetings every Thursdays.

(C) Classroom Issues

Every learner is unique therefore individualism is important.

The principal at High school B talked of each child as a "precious stone that should be taken care of."

Variety of teaching strategies are used to accommodate all.

Textbooks are used very often in the classroom.

Experiments are done as specified in the unit.

Lot of classroom written exercises is given and assessed regularly.

Teachers are qualified and they like the subjects they teach.

They enjoy being at the schools where they are although some of them are staying away from their families.

Teachers reflect and talk on their shortcomings and take the initiative for their own development to solve the problem encountered e.g. the new curriculum demands on integration and assessment.

No disciplinary problems encountered in the classrooms. Japanese are the learning nation. Learners are not forced to go to school, but they enjoy being in school.

Lesson study analysis is used as means of improving lessons. These are very common and very effective as one of the principal mentioned that, "they promote peer teacher learning which should be institutionalized in the schools."

(D) Extra-Mural Activities

Extra-mural activities are used to stimulate and to motivate the students. They take place after school, during weekends or holidays. The teachers value every minute of their teaching time. Staff meetings are not held during school hours

Teachers are assigned specific duties on various activities and this strengthens their relationships with their learners at a relaxed atmosphere.

<<FINDINGS AT THE MSSSI SCHOOLS in South Africa>>

(A) School Management Issues

The MSSSI schools that were visited have principals that are not highly experienced as compared to the Japanese principals. A principal of school A has been a principal for 3 years and schools B has been a principal for 2 years in the same school. The principals have both being teachers of science and are highly qualified in these subjects but they did not have any professional content support to the teachers that teach the subject. They perceived their role as administrators and had nothing to do with subject matter because there are Heads of Departments (HOD) that are responsible for the content knowledge support.

The support that was given to teachers was transport money to go and attend the workshops on the new curriculum and the MSSSI activities but there was no formal time given to the teachers to report on the workshops or to give reports to the principal, this was left to the teacher to decide. There were no monitoring procedures put in place on the work that teachers do on daily bases except for the checking of learners' books every term and the assessment marks that are sent to the principal's office at the end of the term. The management issues are left to the school management team (SMT), which is made of the principal and his deputy, the

HOD and the one teacher representative. The other teaching staff had little or nothing to do with the management issues. The principal is accountable to the education department and to the community and not to the learners. The community's involvement is through the School Governing Body, which becomes the decision maker for the parents on school matters. The principal spent most of his time on disciplinary matters than professional matters.

Principal at school A commented by saying that his teachers fail to take initiatives, "they want to be told all the time." The idea of ownership and belonging to the school is far fetched from most of the teachers. The ownership of the school is more associated with the principal than with the other teachers. Principal A mentioned that the teachers sometimes say that "in your school" instead of in our school.

(B) Professional Issues

The schools day is very short. Teachers spent about 8 hours in school, and within these 8 hours there are two breaks, one short and one long. In most cases schools start at 8.30 to 2.30. In some cases teachers arrive in school almost at the same time with the learners and spent about an hour after school. During this hour a lot of non-academic work is done. The teachers sometimes meet at the subject committee meetings and discuss some professional matters but these are very rare cases. A lot of INSET take place at the central venue and is on OBE and MSSSI workshops but very few or none of such take place at a school level. Principals were not very strict on the sharing of information or report after training or courses. There was little support given at a district level by the implementers because they were few and busy with other administration issues, for example the monitoring and delivering of the grade 12 papers and OBE training sessions for them as well.

In most cases staff meetings take place during school hours because teachers use common and public transport. And moreover in school B teachers told us that they have "their own personal matters to attend to after school." Asking for help and assistance from the neighboring school was not very common and time was put as a major factor.

Teachers admitted that the new curriculum was a problem and that little or no guidance is given to them except through the MSSSI workshops. There was no effort done by the teachers to improve their understanding of the new curriculum. One of the teachers in school A said that, "it is still a confusion."

◀ Comparison of the South African data to the Japanese data ▶

The data collected from the schools where teachers and

principals were interviewed in South Africa and the data collected in Japan has been used for the formation of this comparison, which made us and other South Africans to believe that Japanese schools are better than the South African schools. If we follow Obaikor's argument⁸⁾, "good schools are made of good teachers who take holistic approach to education, considering each student's needs academically, socially, emotionally, culturally and globally. Good schools have good principals as managers."

(A) Management Issue

The Principal's experiences

Principals of schools in Japan bring a vast experience with them from actual teaching in various schools and as principals from various schools through their rotation system as principal. They have exposure to both rural and semi rural setting of a school. The counterparts in South Africa bring a limited experience of one to two schools teaching and the principal spends his lifetime to that school until promotion or pension.

PROFESSIONAL SUPPORT

Principals of school in Japan are highly qualified and specialized in specific subjects. This specialization enable them to give professional subject content knowledge to their teachers as an internal support within the school.

Their counterparts in South Africa are also qualified and have specialized in specific subjects but they see their role only as administrators not professional support.

DISCIPLINE

The Principals in Japan have minimal or none discipline problems on late coming, dodging learners, teachers who do not go to classes, teachers who leave early or come late to school because the Japanese have work ethos embedded to their culture and the learners are at school because they want to learn. Teachers in Japan enjoy teaching and chose the teaching profession because they liked it.

The Principals in South Africa are always faced with disciplinary problems of teachers who do not want to work, teachers coming late to school and leaving early. Some teachers chose the teaching profession because there was no other thing to do and they are there because they need the job and the money. Some learners are at school because their parents want them to be at school but they do not like to be at school. They talked about school as "boring."

MEETINGS

Staff meetings are always held after school hours in a Japanese school.

In most South African schools staff meetings are held during school hours because they are part of the school work.

SHARING AND REPORTING

If the teacher has been on a course or workshop feedback and reports are given and shared with the other teachers and the principal becomes part of the team.

Some principals are not strict and committed to the information that the teachers bring to school; it depends entirely on the teacher or sometimes the head of department to share the information.

STAFF TRAINING AND DEVELOPMENT

Staff development training for principals happen at the schools that are close to each other in the form of a sharing meeting but these are very rare. These never happen in MSSSI schools.

SCHOOL FESTIVALS AND PUBLIC EVENTS

In Japan, there are school newsletters and other public events such as School Festival that promote the relationship of the school with the community. These never happen in a South African MSSSI schools.

TIME FOR EXTRA MURAL ACTIVITIES

Sports and other related activities take place after school and during holidays and all the teachers are involved in these activities in Japanese schools. Japanese schools value every minute of their teaching time.

In some South African schools extra mural activities take place during teaching hours like music. Some periods or time got lost or wasted in matters that are not subjects related in most South African schools. For Example in school A where I was for a week we had the following interruptions: 30 minutes was given to the local police station people that had to talk to students on safety, 30 minutes was to be given to the people that visited the school to distribute bibles, 30 minutes to the choir members to polish up their song for the competition, etc.

MONITORING AND ASSESMENT OF TEACHERS

Monitoring and assessment of teachers work was done on daily bases by the principal and also through weekly lesson study sessions on Thursdays. The work that teachers bring in the principal's office is evaluated in Japanese schools.

In the South African schools some principals become so busy with administration issues and have no time for effective evaluation and monitoring of teachers. They are happy in most cases when the teachers are in classes teaching and what they teach is hardly checked or monitored. Monitoring is done through the learners written work once a quarter.

SHARED MANAGEMENT

All teachers in the Japanese schools that we visited share management. All the teachers' own the school and not only the principal. There is a strong link between the school and

the parents despite the fact that they have little to contribute on curriculum issues.

There is also a strong link between the school and the parents through the School governing body (SGB) but little or no contributions on curriculum issues.

(B) PROFESSIONAL ISSUE

Japanese teachers spent long hours at school doing professional work while the South African teachers spend few hours in school.

Japanese teachers take initiative for their own development whereas in South Africa teachers need to be told all the time on issues pertaining their own development.

Detailed lesson plans are prepared daily when it took me three days to get the copy of the lesson plan from the school B that I visited.

Experiments and practical work are often conducted in Japanese school compared to South African schools.

Individuality of the learner is taken into consideration in Japanese schools whereas in the South African schools I heard of teachers talking about "unmotivated learners who are stupid."

The Japanese teachers use the textbook often in the class with learners while the South African teachers felt that the book was not important in OBE lessons.

The teachers in Japanese schools valued the support from the principal and would always involve him in curriculum issues. I am not sure whether the South African teachers will value the participation of the principal in curriculum matters as he is seen as an administrator that owns a school.

5. 結 論

ここで取り上げている調査と両国の学校運営や教師の態度・授業などへの取り組みの比較は、まさに、学校文化の比較である。そのためには両国の文部行政の歴史的な違い、さらに背景にある社会・文化の違いを考慮しなければならない。その上で南アフリカ共和国の学校がどう変革していくべきかを探るため、日本の学校運営と教師の取り組みを南アの研究者の立場で検証することに意義があり、ここで得られた知見は、南アの教育行政へまた日本の学校への示唆にもなると考えられる。

今回インタビューした日本の学校長と教員から得られた日本の管理職と現場の教員の学校運営への取り組みに関する情報と、著者の一人 (T.N.) が南アで収集した同様な情報との比較は一方向的に南アの校長と教員に厳しいが、これはもともになる状況が大きく異なることを考慮しなければならない。すなわち、黒人層の大部分が通う南アの公立の学校は、アパルトヘイト政権後の1994年以

降においても教員数の大幅な不足（どの学校でも3～5人の教員が不足し、欠勤しがちな教員も多い）、中等学校以上では教科内容について訓練されていない教員の高い割合（高校担当の指導主事でも中学校レベルの理科の教科内容を正確には知らない）、学校の都合により担当教科が頻繁に変わる事情（筆者の一人（M.K.）が訪問した学校では、理科教員がいないため高校でスクールカウンセラーが理科を教えていた）などから、教科内容に関わる活動がほとんどできず、教科書の朗読や教科書の内容の暗記の学習とならざるを得ない。その教科を専門的に修めていない教員の場合は特にその教科を教えるという意識が少ないため、準備や内容を深める努力をあまりしない。学校の教員組織の運営面での欠陥があまりに大きく、一人一人の教員のやる気を引き出すためには、単なるスローガンや精神論では効果が期待できない。また、南アでは、州の教育省・郡レベルの教育委員会の強い管理体制が敷かれていて、校長・教科主任・教員ともに、上に対する発言権がなく、授業の質よりも自己保身が強く働く。アンケート調査も正直に書かないか、回答を拒否するケースが多い。上下関係においても、同僚間でも、お互いに教えあったり、協力する文化がこれまで学校運営において培われてこなかった。現在もこれが学校文化を変革する際の大きな障害となっている。

この障害を取り除くためには、教育行政面で、教員が教科に責任を持てる安定した配置が第一に必要である。学校運営においても、強権的に上からのみ命令するのではなく、教職員全体に合意形成をはかるために自由に意見を言い合える雰囲気作りが校長・郡レベル教育委員会・州教育省に求められている。

その上で、良い学校を作るために構成員がどのようにあるべきかを、構成員みんなで考え、例えば日本の教育

行政・学校運営から取り入れられるものを検討し、一つづつ合意形成をしながら南アの学校へ生かしていくべきであろう。

参考文献

1. 長尾真文・服部勝憲・喜多雅一・小野由美子「南アフリカ共和国ムプマランガ州中等理数科教員再訓練計画 MSSI プランニング・スタディ 報告書」国際協力事業団, 1999年9月
2. 喜多雅一他「南アフリカ共和国の理科教員の現状と課題」鳴門教育大学研究紀要, 第17巻, 27-35, 2002年
3. PTL/MSSI TEAM, MSSI Guidebook No.2 "Peer Teacher Learning", JICA(SA), (2002)
4. MSSI TEAM, MSSI Guidebook No.3 "Clustering of Schools - A Guidebook -", JICA(SA), (2003)
5. D. Grayson, et al., "A comparison of mathematics and science high school teachers' attitudes in Japan and south Africa" the SAARMSTE Conference in Maputo (2001)
6. R. Paulsen, "Classroom practices in Japan and the Republic of South Africa: a comparative study", to be submitted.
7. Jansen, et al., "Changing Curriculum: Studies on Outcomes-based Education in South Africa" Kenwyn, South Africa, Juta (1999)
8. F. E. Obiakor and B. Algozzine "It even happens in "GOOD" schools: Responding to Cultural Diversity in Today's Classroom" Sage Pubns (2001)
9. Fairview School Improvement Plan (2002 - 2003)
10. O. Peter "Reflective Teacher Development in Primary Science", Taylor&Francis (2000)

South African Perspective on Japanese schools as good schools

Masakazu KITA^{*}, Thembi NDLALANE^{**} and Yumiko ONO^{***}

This paper is based on the observations gathered from various groups of educators at different levels that visited schools in Japan and interviewed and talked to lots of people in various schools. The data collected and compared in this paper gave us enough evidence of saying Japanese schools are better than MSSSI South African schools because they are made of good teachers and good managers who care for the development of their learners as a whole. The definition and the description of a good school by Obiakor (2001) fitted well in the schools that we visited. If we know some of the ingredients that make a good school, we can have aspects of a dream school. These ingredients are mainly in human beings and we believe that through experiential learning and evidence based practices we can all learn.

^{*} Natural Science (Science), Naruto University of Education

^{**} Center for Science Education, University of Pretoria South Africa

^{***} Japanese Education, Naruto University of Education